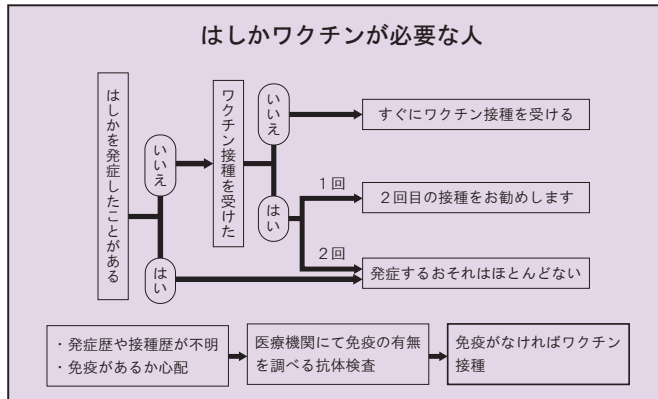


麻しん (はしか)

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスの空気感染、飛沫感染、接触感染によって起こる感染症で、急に発熱、発しんが出現します。

一般に小児期に多く罹患し、感染力が非常に強く、大人になって発症すると重症化（肺炎・脳炎）する場合があります。予防には麻しんワクチンの接種が有効なため、合計2回の予防接種を済ませておくことが大切です。また、資格取得に必要な実習、留学や就業の際に、麻しんや風しんの免疫証明書を求められることがあります。



◇麻しんの症状

- ①感染後（患者と接触後）1～2週間の潜伏期の後に発症します。
- ②初めは、発熱（38℃位）や咳、鼻汁や眼の結膜充血といった風邪のような症状が2～3日続きます。
- ③熱が一旦下がった後、再び高熱（39℃～40℃）が出て、口腔内に白い斑点（コプリック班）や首すじや顔などから全身に赤い発しんが現れ4～5日続きます。

◇麻しんの治療

- ・治療には、特効薬はなく対症療法になります。
- ・患者との接種後72時間以内であれば、麻しんワクチンの予防接種で発症予防効果が期待できると考えられています。

◇麻しんが疑われるとき

- ・上記「麻しんの症状」の②が見られた場合は、医師の診察を必ず受けてください。詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。
 - ▶国立感染症研究所 感染症情報センター

風しん

風しんは風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。感染後2～3週間の潜伏期を経て発熱、発しん、リンパ節の腫れなどの症状が出現します。子供の場合、3日程度で治ることが多いので「3日はしか」と呼ばれますが、大人になって感染すると重症化する場合があります。特に妊娠中（妊娠初期）に感染すると、お腹の赤ちゃんに感染し、心臓の病気や目や耳に障害を持った赤ちゃん（先天性風しん症候群）が生まれることがあります。

対策として、①手洗い、うがいの励行 ②風しんワクチンの接種があります。風しんワクチンについてまだ受けていない人は、妊娠中の感染予防や、男性も妊婦にうつさないよう予防接種を済ませておきましょう。